

特集 ゴミ減量のキーワード“5R”を実践しましょう

本市における令和元年度のごみ処理に係る負担金は、7億1479万2000円です。市全体のごみの総排出量は2万679tで各家庭から出されるごみで見ると1世帯あたり520kg排出していることとなります。

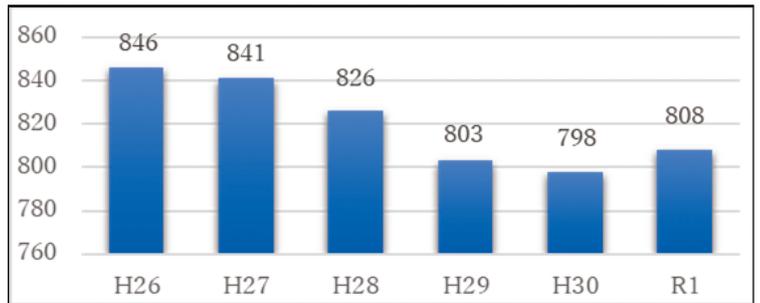
ごみが減ることで、ごみ処理に係る負担金の低減につながります。また、地球温暖化の原因となっている二酸化炭素の増加も抑えることができます。

市では、環境に配慮し、ごみの減量を推進するため、5Rの取組を促進しています。市民1人が1日当たりに排出するごみの量(下表参照)は、減少傾向にあります。さらなるごみの減量に向けて5Rの取組を実践しましょう。

問合せ先 生活環境課環境推進担当

【市民1人が1日当たりに排出するごみの量】

単位:グラム



リデュース
duce
発生抑制

リユース
Reuse
—再使用—

減る
のR

リサイクル
Recycle
—再生利用—

Reuse 「もう一度使ってみよう」

古くなったタオルやハンカチは、ぞうきんやウエス(油や汚れをふきとる布)として使うことができます。

シャンプーや洗剤は詰替用を購入するなど、新たなごみを生み出さないために、もう一度ほかの用途で使用することを検討し、繰り返し長く使うことを心がけましょう。



【川角リサイクルプラザ再生品販売会】

再生した展示品を購入することができます。再生品のため、保証はありません。

日時 平日9時～12時

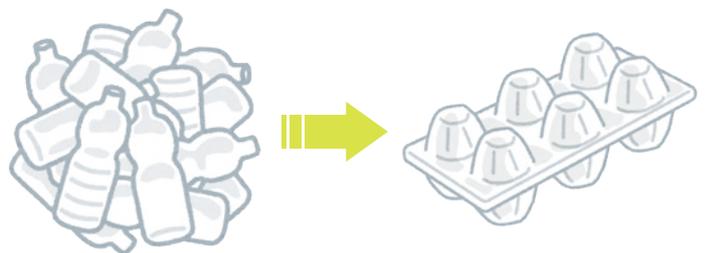
場所 川角リサイクルプラザ(毛呂山町川角1959-1)

問合せ先 同プラザ ☎294・4115

Recycle 「資源をよみがえらせよう」

古紙はトイレペーパーや再生紙、缶は自動車部品や建築資材、ペットボトルは卵パックなど、様々なものに生まれ変わります。

混ぜればごみですが、分ければ資源となり、新たな製品によみがえらせることができます。資源として有効活用できるようきちんと分別しましょう。



マナーと分別ルールを守って正しく使いましょう～

Reduce 「ごみを減らそう」

生ごみの半分は水分です。水分を絞れば生ごみの重さは半分になります。ごみとして出す前に生ごみの水切りを十分に行いましょう。

さらに、生ごみ処理器「キエーロ」などを使って生ごみを自宅で処理できれば、自宅から出る可燃ごみを3割程度削減できます。

市では、今年度、森林環境基金を活用し、西川材で製作したキエーロ30基を販売しました。

職員によるキエーロ実践実験を市ホームページで随時更新していますので、ぜひ、のぞいてみてください!



生ごみ処理器「キエーロ」



市HP

Repair 「修理をしてみよう」

椅子の座面が破けたらすぐに捨ててしまうのではなく、伸縮性がある古着を活用し、張り替えて修理してみましょう。

世界にひとつだけのデザインの椅子は座っていて気持ちがいいです。

また、かかとがすり減った靴や角がこすれたカバンを修理してみましょう。修理の跡も愛着がわきます。

壊れた家電や家具も、買い替える前に修理できるかどうか検討してみましょう。



Refuse 「不要なものは断ろう」

過剰包装を断るために、ふろしきを活用してはいかがですか?

ふろしきは、変幻自在で本や瓶も包んで運ぶことができるため、マイバッグの代わりや贈り物の包装としても使うことができます。使わないときには、たたんでカバンなどに入れておいて、必要になったらさっと取り出して使える便利な1枚です。

また、使い捨てのおしぼりやはし、スプーンなどは、受け取るときにもう一度、本当に必要なものか考えてみませんか。

不要なものは、断る勇気も必要です!



Re
—ごみの

リペア
Repair
—修理して使用—

ごみが
5つ

リフューズ
Refuse
—ごみになるものを
受取拒否—

～ごみ集積所は、利用する皆さんが清潔で気持ちよく利用できるよう、